

美保基地における空中給油・輸送機（KC-46A）の追加配備に係る住民説明会

▼開催概要

日時：令和 7 年(2025 年) ①3 月 14 日(金)19 時～・②15 日(土)10 時～ ※同じ内容を 2 回開催

場所：境港市民交流センター「みなとテラス」2 階 大会議室

出席者)

中国四国防衛局 企画部長、調達計画課長、美保防衛事務所長、基地対策室長、ほか

航空自衛隊美保基地 渉外室長、基地対策専門官

境港市 市長、副市長、都市整備課長、港湾空港対策室長、ほか

参加者数) ①3 月 14 日 23 人（市内 21 人・市外 2 人） ②3 月 15 日 18 人（市内 16 人・市外 2 人）

▼主な意見・質疑

問 1 美保基地の地元である中浜公民館で住民説明会を開催するべき。

答 1 市内全域を対象とした説明会として、平日夜と休日午前の 2 回開催とした。美保基地に近接する自治会の会長の方々にも防衛局から説明いただいた。今回は追加配備であり最初の配備とは異なる。(境港市)

問 2 追加配備は、他国から攻撃を受ける格好の場所になってしまう。

答 2 我が国周辺の厳しい国際情勢、戦争を起こす前に抑止力を日本側でも持つ必要がある。まずは外交が第一だが、外交をするためには防衛体制がないと成り立たない。(防衛局)

問 3 なぜ 10 機体制が必要なのかを、以前と同じ形で説明会を開催するべき。

答 3 専守防衛が第一。それに基づき各国と対話が出来る抑止力を持つ観点から体制をとっていく考え。住民説明会はこの考えをしっかりと伝えるべく市と連携し 2 回開催している。(防衛局)

問 4 ①議会が住民説明会より先に判断するのはいけない。

②抑止力の強化は、相手国からどう見られるか。

答 4 ①市議会は防衛局から説明を受けた後に、判断されている。(境港市)

②第一は外交。外交のためにしっかりと抑止力が必要。(防衛局)

問 5 国連軍に関する規定や日米地位協定で朝鮮有事に対する日本の役割は定められている。アメリカは日本に自国による防衛の強化を求めてくる。こうした点も説明するべき。

答 5 我が国の置かれている状況はその通りだと理解している。日米同盟で日本が果たしている役割は伝えていく必要がある。(防衛局)

問 6 防衛力整備計画や国防政策を見直せといった話ではなく、今回の説明会では KC-46A の追加配備に関する安全性など、技術的な説明が聞きたい。民間機の就航も増えており航空機の過密による事故発生の懸念はないか。

答 6 KC-46A の安全性については、機体の納入までに技術上の基準に適合しているかを確認し、導

入後も、パイロットの訓練、資格資格もしっかりやった上で運用。パイロットの定期検定、飛行の前後にはしっかりと点検、その上での定期整備も実施。飛行の安全については万全を期している。過密への懸念は、民航機の計画になるべく影響が出ないよう自衛隊でしっかり運用していきたい。(防衛局)

問 7 10 機体制になった時に、製造メーカーを境港市へ誘致し、整備を地元でやることを考えはあるか。市民の安心にもつながる。

答 7 防衛力は装備が一番重要であり、政府全体で防衛産業をバックアップしていく取り組みを進めてきている。(防衛局)

問 8 なぜ空の上で給油しないといけないのか。財政難だが 1 機いくらかい。

答 8 太平洋側も含めた様々な空域で給油する。海外での国際救助のための輸送もやる。邦人輸送にも使う。費用は 1 機あたり約 480 億円を計上。(防衛局)

問 9 戦闘機がどのくらいの航続時間で、空中給油は戦闘機が基地に帰らずに空中で給油することによって、隙間なく平準化することが目的。そういう説明をしてはどうか。

答 9 ご指摘のとおりであるが、航続時間については国防に関わるため答えられない。(防衛局)

問 10 KC-46A が墜落したら火の海という意見もあったが、自分が聞いた話では燃料満載では飛べないとのこと。必要最低限の燃料で訓練されている。追加配備による抑止力の強化は必要と考える。

答 10 専守防衛の立場を取り、まずは外交が第一。それに備えた抑止力を持つため今回 KC-46A を追加配備させていただきたい。

問 11 ①KC-46A の整備は自衛隊が行っているのか。

②米軍機への給油の可能性は。

③ICBM による攻撃は防御できるのか。

④購入する機体は新品か。

⑤購入機数を減らして市民の生活費にまわして欲しい。

答 11 ①整備は自衛官が行っている。(美保基地)

②給油対象は基本的には自衛隊機。実績は無いが米軍は排除していない。

③ミサイルが発射されたときは、防衛省・自衛隊だけではなく、米軍や関係諸国と連携して様々な情報を収集している。これ以上は差し控える。

④KC-46A は中古ではなく新品。

⑤意見として承るが、予算については政府全体で考えていくものと認識。(②～⑤防衛局)

問 12 市民を守るためにシェルターを作るなどの施策を考えてほしい。戦争を回避する平和への手立ても考えてほしい。

答 12 沖縄の離島では、シェルター設置という方向も検討はされているが、極めて限定的なエリアで検討されているもの。戦争の回避は第一には対話・外交だが、その裏付けとなる防衛力は必

要。様々な事案を想定し、国民保護計画など政府全体で検討している。(防衛局)

問 13 ①「現時点では完了」とあるが今後の追加の可能性はないか。

②離着陸が1日50回程度増えると言われたらしいが、そこまで増えるなら中浜地区は1日中騒音を受けることになる。

答 13 ①今後については、国際情勢の動きによるため断定的な発言はできない。現状としては完了としか言えない。

②離着陸回数は「1か月あたり」50回程度。周辺への影響はしっかりと配慮する。夜間訓練は必要だが、早朝・夜間の飛行については最小限になるよう配慮していく。(①②防衛局)

問 14 外国からの民航機への制約は考える必要はあると考える。何でもウェルカムはいかがなものか。輸送基地である小牧基地はもとが民間空港であり民航機も入っているが、入間基地には民航機は入っていない、美保基地とは異なる。

答 14 自衛隊本来の任務への影響があってはならないが、地元の理解がないと運用ができないと認識しており、バランスの問題。地元と相談しながら適切にやっていく。(防衛局)

問 15 ①「粘り強く戦闘を継続」とあるがこれは「戦闘」なのか「作戦」なのか。

②「美保基地が有利な位置にある」とする理由の説明を。

③基地内に確保できる地積は今でも手狭と思う。

④外国からの領空侵犯について資料に記載があるが、戦闘機に空中給油機が空中給油した実績があれば教えてほしい。

答 15 ①領空侵犯があると、まずは戦闘機が向かうが、本土に戻るとロスがあるための空中給油。戦闘はわが国を守るための戦闘という意味。

②いろいろな空域を警戒監視するうえで美保基地は有利な位置にあるという意味。

③基地内の地積は、老朽化による建て替え等でしっかり整備できると考えている。

④空中給油については三沢基地のF35Aに対して行った実績がある。(①～④防衛局)